明治[illegible]

会員相互の親睦及互助、修養に努めつゝありしが今回司厨長全部之れに加入し進[illegible]
は本社と相提携して其の大方針の下に活動して社運の隆昌を計り又國家海運政策を援護し退ては會員の休養、親睦、互助、救済、修養、及後進の教導品性の向上を期せんとするに至れり。

茲に一大教習所を創設するに至れり。

然れども本會は創立後日尚浅く資金に乏しく吾人等の企圖を完備せんとするも其の意に任かせず茲に企劃の一端を發表し豫算概要書を作製し且つ發起人名を記し大方諸彦の御賛助を仰がんとす。

幸くば吾人等が志意の存する所を諒せられ奮つて御賛同あらん事を。

大正九年二月二十五日

現商船同志會擴張計劃書

一金四萬五千圓也

教習所及休養所建築費及電話二個買入豫算

内譯

建築費

一金四萬圓也

但シ六十坪ノ二階建(西洋式)上部ヲ軍隊式樣ノ寢臺約七十個ヲ備付下部ニ數場約百ノ机及腰掛ヲ備付外ニ平屋建ニテ食堂室兩便所病室浴場及料理室ヲ建築ス

一金五千圓也

電話二個買入費(事務所一、休養所一)

此金額調達方法

一金壹萬圓也

普通會員即チ料理人及給仕ノ各員ヨリ建築費トシテ一名拾圓宛據出シ其數一千名ト假定ス

一金五千圓也

特別會員即チ司厨長約八十名各自一ケ月分ノ俸給ヲ向フ六ケ月間ニ寄附トシテ拂込ム事(協議濟)

一金參萬圓也

右八十ケ年間ニ會費ヨリ得ル事

(但一ケ年參千圓ノ豫定)

商船同志會今後收支計算概要(年度)

一金壹萬貳千圓也

但會員一ケ年ノ會費金壹圓トシテ一千名分

一金貳千八百八拾圓也

但特別會員會費一ケ年金參圓トシテ八十名分

計金壹萬四千八百八拾圓也

支出豫算

一金七百五拾圓也

右八會員死亡者ニ對シ弔慰料トシテ一名金五拾圓宛贈呈ノ事(千分ノ十五ノ割)

(但シ二ケ年以上會員ノ義務ヲ履行シタル者ニシテ他ハ本規定ノ半額トス)

一金壹百圓也

右八會員ニシテ火災ニ罹リタル場合其見舞金トシテ金五拾圓也贈呈ノ事

但阪神在住者ニ限ル(一千分ノ二ノ割)

一金參百圓也

右八會員ノ父母及妻死亡シタル時ハ香奠料トシテ入籍者ニ限リ金參圓也贈呈スル事

但シ二ケ年以上會員ノ義務ヲ果シ尚事故發生迄義務ヲ履行シタル者ニ限ル

(一千分ノ百割强)

一金六百圓也

會員ニシテ五ケ年以上會員ノ義務ヲ果シ退職シタル場合紀念品ヲ贈呈スル事

但シ價格金拾五圓トス(一千分ノ四十ノ割)

一金七百圓也

會員ニシテ十ケ年以上會員ノ義務ヲ果シ退職シタル場合紀念品ヲ贈呈スル事

但價格金七拾圓也トス(一千分ノ十ノ割)

各位

價格貳圓トス(一千分ノ百二十强ノ割)

一金參千六百圓也

事務所諸經費

但シ榮町事務所家賃、常備通船料、會報費印刷費、消耗品及文房具其他一切ヲ含ム

一金貳百七拾圓也

教習所敷地料(二百五十坪ト假定シ一坪十八錢ノ割)

一金壹千八百圓也

講師三名ノ一ケ年分俸給額但シ課目ハ國語英語數學簿記及衛生講話

一金貳百四拾圓也

教習所禁賄費

一金貳百四拾圓也

代表者交際費

計金壹萬七千九百九拾圓也

差引金參千百拾圓也

一ケ年分不足ノ豫定ニ付キ左ノ方法ヲ以ッテ之レニ充ツ

内譯

一金貳千〇五拾圓也

右ハ退職手當金ナレバ五ケ年後ニ於テ支出ヲ要スルモノナリ

一金六百圓也

右ハ新加入者一ケ年百二十名ト假定シ加入料金一名金五圓也申受ク

一金四百六拾圓也

右ハ現在ノ流動資金貳千圓ノ利子ヲ計上ス

一金壹千百九拾圓也

右ハ寄宿者平均五十名ト假定シ寄宿料一日七拾錢トシ約一割ノ雜收入ヲ得之レヲ寄宿合祭賄費ニ充ツル

備考

一會員退職ノ場合紀念品贈呈ニ關シテハ本人ノ希望ニ依リ現金ヲ支給スル事ヲ得

一會員現住所火災ノ際ハ本會ニテハ救護班ヲ組織シ走セ付クル準備アリ

尚近ク所轄縣廳ノ公認ヲ得ル豫定

一會員家族ニ死亡者アリタル時ハ會旗ヲ持ッテ會葬ス

一本社ノ徵罰ヲ受ケシモノハ何人ニ限ラズ絕對ニ本會ヨリ除名スルモノトス

設立發起人

(順序不同)

井方孟房殿　前川俊太殿

加藤長平殿　高山道五郎殿

石田虎十殿　鈴木信次郎殿

甘濃庸造殿　藤井傳三郎殿

諸岡愛三郎殿　丹後勝行殿

鳥取孫左衛門殿　小須田利忠殿

弘中九一殿　夏見集三郎殿

澁谷仁三郎殿　小澤與市殿

江阪九一郎殿　野中松太郎殿

井邊義楠殿　山田藤松殿

三好孝殿　高藤秋之助殿

小澤隆甕殿　片山富藏殿

藤野良之助殿　雉眞宗三郎殿

安井丈太郎殿　吉川丹治殿

小川伊太郎殿　横山泰一殿

太田佐一郎殿　南野駒吉殿

大島多治殿　加藤藤吉殿

右建築費寄附金に付ては事務所に於て再三協議の結果前文の通り決定し四月一日より八月三十一日までの間四期に頒ち會員より徵收する事に決す

追伸　發起人協議の結果設立委員長に加藤長平氏を推薦せしに同氏より承諾を得たり